**【エクアドル内政：２０１６年６月】**

1. **内政**
2. **閣僚の交替**

ア　コレア大統領は，６月１０日付大統領令第１０６９号及び同月１３日付１１００号により，工業・生産性大臣及び環境大臣の交替を発表した。

イ　辞任した閣僚

ロルダン・ビニシオ・アルバラード・エスピネル工業・生産性大臣

ダニエル・ビセンテ・オルテガ・パチェコ環境大臣

ウ　新閣僚

　サンティアゴ・レオン・アバッド工業・生産性大臣

　ウォルター・フランシスコ・ガルシア・セデーニョ環境大臣

エ　①アルバラード前工業・生産性大臣は，５月２０日のエガス元大臣の辞任に伴い，同日より工業・生産性大臣に就任していた（生産・雇用・競争性調整大臣との兼任。同調整大臣のポストは維持）。後任者のレオン大臣は，工業・生産性副大臣からの昇格。以前は生産・雇用・競争性調整大臣（２０１１年ー１３年）を務めたこともある。

②ガルシア新環境大臣は，建築の専門家で，以前は内務省顧問を務めたことのある人物。

**（２）地震を受けた被害状況の調査及び再建費用の発表**

ア　６月１日，ナランホ国家開発企画庁長官は記者会見を開き，国家開発企画庁が国家統計局（ＩＮＥＣ）及び国連との連携の下で４月１６日に発生した震災による被害状況を調査した結果，再建費用が３３．４４億ドルとなる見通しであると発表した。

イ　セクターごとの必要額及び（再建費用総額に占める割合）は，以下のとおり。

●社会セクター（公共の住宅及びスペース，保健，教育，文化遺産）１３．６９億ドル　（４１％）

●生産セクター（手工業，貿易，観光，農水産業）１０．３２億ドル（３１％）

●インフラ（電力，通信，上下水道，道路）８．６２億ドル（２６％）

●その他（環境，安全）０．８１億ドル（２％）

ウ　今回の地震による被害は，再建に関する公共政策が不在と仮定した場合，２０１６年の経済成長率に－０．７パーセント・ポイントの影響が出る程の規模であり，地震による被害の９５％が集中しているマナビ県においては，２１，８２３の雇用が失われ，失業率が３．４５パーセント・ポイント上昇する計算となり，適切な公共政策が不在であれば，県の総生産が９．８パーセント・ポイント減少すると診断された。

エ　地震の影響による輸入増加は，１．７５３億ドルとなる見通し。

オ　国家開発企画庁プレスリリースにて，被災地における再建は，中央政府全体の努力及び地方自治体政府，民間企業セクター及び一般市民からの大きな協力なしには成し遂げられないため，エクアドル政府は，再建の過程において地元の労働者及びエクアドル企業が活躍するような政策を策定した旨発表された。

**（３）コレア大統領シンパ・グループ「いつもラファエルとともに」の動き**

コレア大統領シンパ・グループ「いつもラファエルとともに」がコレア大統領の次期選挙出馬の是非を問う国民投票を実施することを求めている問題で，６月１６日，国家選挙審議会（ＣＮＥ）が，署名用紙を同団体に送付することを決定した。

**（４）野党団結に向けた動き（ＰＳＣ党からの大統領候補擁立）**

ア　６月３０日，キリスト教社会党（Partido Social Cristiano，ＰＳＣ）は同党からの大統領候補としてシンティア・ビテリ国会議員を擁立すると発表した。右について，同党員であり，野党リーダーによる連合ＵＮＩＤＡＤの発起人の一人でもあるネボット・グアヤキル市長は全面的な支持を表明している。他方で，同じく同野党連合の発起人であるパウル・カラスコ・アスアイ県知事（ＰＯＤＥＭＯＳ党党首）は，ＵＮＩＤＡＤとの関係を一時停止すると発表し，ＰＳＣからの大統領候補擁立に納得していない模様。

イ　なお，与党ＡＰ党からの大統領候補は，１０月末になるとの報道あり。

**２．外交**

**（１）天野ＩＡＥＡ事務局長のエクアドル訪問**

（以下１６日付エクアドル外務省プレスリリース引用）

ア　１６日午前，ラウタロ・ポソ外相代行（当館注：外相、副外相は、外遊中のため、外務省ラテン・アメリカ及びカリブ諸国担当次官が外相代行を務めていたもの）が，南米各国の訪問を開始した天野ＩＡＥＡ事務局長を外務省に迎えた。同会合の場には，メダルド・カデナ・電力・再生可能エネルギー省副大臣も出席した。

イ　天野氏は，６月１４―１６日の日程でエクアドルを訪問。その目的は，政府要人との会談を通じ，原子力を利用したＩＡＥＡのエクアドルに対する協力を評価することであった。

ウ　日程の中で同事務局長は，ホルヘ・グラス副大統領と会談を行い，また，地震で被害を受けたマンタ及びポルトビエホを訪問し，ＩＡＥＡより機材供与を受けたルディ・セバージョス病院及ガンセンター（ＳＯＬＣＡ）を訪問した。キト市においては，国家臓器・細胞・組織提供・移植機関（ＩＮＤＯＴ）の組織バンクを訪問した。

エ　ＩＡＥＡは，本年４月の地震発生直後，総額５３３，５４４，３８ユーロの機材供与の協力を決定した。それら機材は，発電機や付属品を含む４つの携帯型医療用Ｘ線装置，ジカ・ウィルスを含めたウィルス検知装置，検査キット，２４の個人用放射線検査器などである。

オ　ＩＡＥＡのエクアドルに対する協力は，エクアドルの農業，生産，保健分野における原子力及び放射線からの物理的安全向上に貢献している。加えて，天野事務局長は、技術移転，エクアドルの専門家・技術者の育成支援などさらなる技術協力を行うことを約束し，（地震関連では）原子力技術（非破壊検査）を利用した，構造物の状態を実地で検査するするミッション派遣の可能性を示した。

**（２）アサンジ・ウィキリークス代表の在英エクアドル大使館における庇護４周年**

ア　６月１９日，ジュリアン・アサンジ・ウィキリークス代表が，在英エクアドル大使館において庇護されて４年が経過し，同日ロング・エクアドル外相が同氏を訪問した。

イ　ロング外相は，「２０１２年６月１９日（当館注：アサンジ氏が在英エクアドル大使館へ庇護を求め入館した日）から４年が経過した。本日は，当時と同様，アサンジ氏への庇護の継続を表明する。なぜなら，かかる要請をしなければならないような状況はまだ消えていないからである。全ての関係者にとって利益になるような解決策を得るためのエクアドルの信頼すべき交渉家としての様々な努力にも関わらず，スウェーデン及び英国はジュリアン・アサンジ氏を第三国へ身柄を引き渡さないということを保証することを拒否した。」等指摘し，アサンジ氏への庇護継続の意向を述べた。

ウ　エクアドル各主要紙においても，本件について大きく取り上げた。報道によっては，２０日にキト市国際ラテンアメリカ情報高等教育センター（CIESPAL)本部と他の４都市（マドリード，ニューヨーク，ベルリン，パリ）を繋いで行われたテレビ会議の内容を報じつつ，これまでの経緯（２０１２年６月１９日の在英エクアドル大使館入館，国連人権理事会恣意的拘禁作業部会の決定，英国政府の要求通りスウェーデンへ送還されれば，米国へ送還され，５０万以上の軍の極秘資料を公表した罪で終身刑もしくは死刑に処される恐れがあるとのアサンジ氏の立場等）を紹介し，上記会議に出席した第三者（ロイ・シンハム氏（ThoughtWorks社創始者），イグナシオ・ラモネット・スペイン人ジャーナリスト等）のアサンジ氏擁護の立場を紹介するなど，記事全体としてエクアドル政府及びアサンジ氏擁護と言える内容のものや，元エクアドル外交官の意見を紹介しつつ，大使館における継続的共生の難しさにつき言及し，アサンジ氏の在英エクアドル大使館における保護にかかる予算（年５，５００ドル強）を試算し紹介するなど，アサンジ氏の４年にも渡る保護に若干批判的な論調のものもあった。

**（３）コロンビアにおけるＦＡＲＣとの和平交渉**

（以下６月２３日付エクアドル外務省プレスリリース抜粋）

ア　ギジャウメ・ロング・エクアドル外務大臣（「ロ」外務大臣）は，２３日午後にキューバのハバナにおいてコロンビア政府とＦＡＲＣの間で停戦合意文書へ署名がされたとの報を，「我々を喜びで満たすもの」と表し，「和平プロセスが終わったわけではないが，この一歩は非常に重要」であり，「暴力の終わり，対立の停止，戦いの停止を意味する」ものである旨述べた。

イ　「ロ」外務大臣は，同文書への署名は「和平達成が困難であろうとの予想の下で実現したもの」であると述べ，コロンビア国民への賞賛の念を表した。

ウ　また，コロンビア政府の政治決断及び同プロセスに関わった人への祝意を表し，「和平の実現は多くの気概と勇気を必要とするものである。」旨述べた。

エ　さらに，「ロ」外相は，ＥＬＮ（国民解放軍）との交渉を含む本対話を引き続き支援していく決定に批准し，今後の協力継続の意向を示した。

 (了)